

東野圭吾の新刊『永遠の記憶』が、noteの AIコンテキストネットワークで作品ページを開設



東野圭吾さんによるガリレオシリーズ最新長編『永遠の記憶』（文藝春秋 / 8月5日発売）が、作品ごとにファンの感想と公式情報を集約するnoteの仕組み「AIコンテキストネットワーク」で作品ページを開設しました。

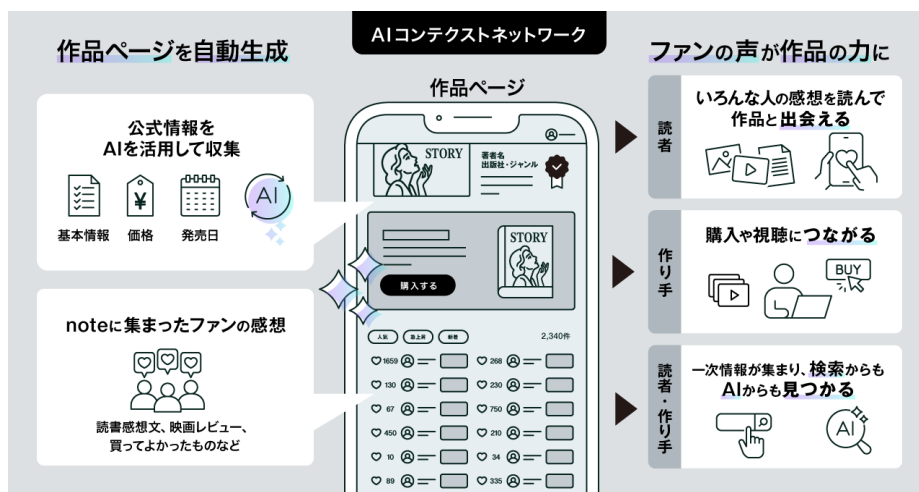
noteには、東野圭吾さんの作品を読んだ感想が数多く投稿されており、「#東野圭吾」のハッシュタグの記事でも6,100件を超えています。ガリレオシリーズは1996年の誕生から30年を迎え、「#容疑者Xの献身」「#沈黙のパレード」をはじめ作品ごとのハッシュタグでも多くの記事が寄せられてきました。

読み終えたあとに残った驚きや、静かに込み上げた気持ち、忘れられないひと言。『永遠の記憶』を読んで心が動いたことを、シリーズを歩んできた人も、この一冊で出会った人も、それぞれの言葉で「#永遠の記憶」を付けて投稿すると、感想が作品ページに集まります。AIコンテキストネットワークでは、そうして寄せられた感想を読み比べたり、ほかのファンの想いと出会ったりすることができます。

【作品ページ】 <https://note.com/hashtag/永遠の記憶>

AIコンテキストネットワークとは

作品・商品ごとに、ファンの感想と公式情報が集まるページをAIを活用して自動で生成する仕組みです。現在は書籍・映像・ゲーム作品に対応しており、今後あらゆるカテゴリに拡大予定です。noteでは「#読書感想文」「#映画感想文」をはじめとする公式の投稿企画を約150件実施しており、寄せられた感想・レビュー記事は累計約200万件にのぼります。



作品ページを訪れた読者は、いろんな人の感想を読んで次の作品と出会えます。作り手にとっては、ファンの声が購入や視聴の後押しになります。一次情報が集まることで、検索からもAIからも見つけやすくなります。ファンの声が作品の力になる。AIコンテキストネットワークは、その循環を生み出す仕組みです。

noteで広がる、読書感想文

noteでは、読んだ本の感想を自分の言葉でつづる文化が根づいています。東野圭吾作品についても、謎解きの面白さを語る書評、湯川学や内海薫といったキャラクターへの考察、シリーズの読む順番を案内するガイド記事、作品に触発されて自分の体験を重ねたエッセイなど、多彩な切り口の記事が積み重なってきました。

『永遠の記憶』の発売を受け、新刊の感想や考察、ガリレオシリーズ全体への感想がさらにふえることが見込まれます。作品ページでは、いろんな人の感想を読み比べたり、自分の読後感を投稿してほかのファンと分かち合ったりすることができます。

note

noteはクリエイターが文章や画像、音声、動画を投稿して、ユーザーがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。だれもが創作を楽しんで続けられるよう、安心できる雰囲気や、多様性を大切にしています。個人も法人も混ざり合って、好きなものを見つけたり、おもしろい人に出会えたりするチャンスが広がっています。2014年4月にサービスを開始し、約8209万件の作品が誕生。会員数は1248万人（2026年5月末時点）に達しています。

- URL： <https://note.com/>
- iOSアプリ： <https://itunes.apple.com/jp/app/note-noto/id906581110>
- Androidアプリ： <https://play.google.com/store/apps/details?id=mu.note>

note株式会社

わたしたちは「だれもが創作をはじめ、続けられるようにする」をミッションに、表現と創作の仕組みづくりをしています。メディアプラットフォームnoteは、クリエイターのあらゆる創作活動を支援しています。クリエイターが思い思いのコンテンツを発表したり、メンバーシップでファンや仲間からの支援を受けたり、ストアで店やブランドオーナーが商品を紹介したり、note proを活用して法人や団体が情報発信をしたりしています。

所在地：〒102-0083 東京都千代田区麹町6-6-2 設立日：2011年12月8日

代表取締役CEO：加藤貞顕 コーポレートサイト：<https://note.jp>

【本件に関するお問い合わせ先】

note株式会社 IRお問い合わせ窓口：<https://ir.note.jp/inquiry>